

3. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。
各連ごとに数量をとりまとめる。

(1) 型枠

型枠は鋼製型枠と木製型枠に下記内容で区分する。

項目	区分	BIM/CIM モデル	規格・仕様	単位	数量	備考
片持部	外型枠	B		m ²		鋼製型枠
	底型枠					
片持部(内型枠、 小口型枠) 柱 頭 部 側 径 内 部 中 央 閉 合 部		B		m ²		木製型枠

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

(2) 鉄筋

鉄筋の数量は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」により算出する。

(3) コンクリート

コンクリートの数量は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.1コンクリート工」により算出する。

(4) PC鋼棒工

PC鋼棒の延長は、アンカープレート内面間の実延長とし、PC鋼棒の種類ごとにPC鋼棒の延長を算出し、鋼材長より質量を算出する。

(5) PC鋼棒継手工

必要に応じて計上すると共に普通継手とG継手に区分する。

(6) PC鋼棒定着工

固定側の定着を算出するものとする。

(7) PC鋼棒緊張工（緊張側の定着装置取付含む）

下記の内訳で算出する。

項目	区分	BIM/CIM モデル	規格	単位	数量	備考
縦締		B	φ○○○	箇所		
横締		B	〃	箇所		
鉛直斜締		B	〃	箇所		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

(8) PCケーブル

PCケーブルの延長は、定着装置内面の実延長とし、PCケーブルの種類ごとにPCケーブルの延長を算出し、鋼材長より質量を算出する。

(9) PCケーブル定着工

片引きとする場合に固定側の定着装置を組立、取付する作業である。

下記の内訳で算出する。

項目 \ 区分	BIM/CIM モデル	規格	単位	数量	備考
縦 締	B	φ○○○	箇所		
横 締	B	〃	箇所		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

(10) PCケーブル緊張工

緊張側の定着装置の組立、取付け及びPCケーブルの緊張作業である。

下記の内訳により算出する。

項目 \ 区分	BIM/CIM モデル	規格	単位	数量	備考
縦 締 (両引き)	B	φ○○○	箇所		
縦 締 (片引き)	B	〃	箇所		
横 締	B	〃	箇所		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

5.2 架設工

5.2.1 プレキャストセグメント主桁組立工

1. 適用

プレキャストセグメント工法の主桁組立工に適用する。

2. 数量算出項目

主桁組立本数、PCケーブルの長さを区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
セグメント主桁組立		B	×	本		注) 1
セグメント主桁		A	×	t		
PCケーブル		B	○	m		

「セグメント主桁組立」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と主桁分割数を算出することより「B」を適用する。

「セグメント主桁」は、BIM/CIMモデルより主桁分割数ごとの質量を算出することより「A」を適用する。

「PCケーブル」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。

注) 1桁高ごとに算出すること。

(2) 規格

規格はPCケーブルの種類とする。

ケーブル	—	1 3 0 0 k N (1 3 0 t) 型 (7 S 1 2 . 7 B , 8 S 1 2 . 4 A)
	—	2 2 0 0 k N (2 2 5 t) 型 (1 2 S 1 2 . 7 B)
	—	3 1 0 0 k N (3 2 0 t) 型 (1 2 S 1 5 . 2 B)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) セグメント主桁組立は主桁分割数及び桁高を算出する。
- (2) セグメント主桁は主桁分割数ごとの質量を算出する。
- (3) PCケーブルは桁1本当りの長さを算出する。

5.2.2 プレブーム桁架設工

1. 適用

プレブーム桁の架設工に適用する。

2. 数量算出項目

主桁本数，鉄筋の質量，コンクリートの体積，足場の延長，型枠の面積，ブロック桁の本数，横桁取付箇所数，部分プレストレスの径間数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			規格・仕様	単位	数量
ブロック桁組立		A	○	t	
横桁取付		B	×	箇所	
部分プレストレス		B	×	径間	
鉄筋		B	○	t	
コンクリート		A	○	m ³	床版，横組
型枠		B	×	m ²	
足場		B	×	m ²	

「ブロック桁組立」は、BIM/CIMモデルを用いて質量を算出することより「A」を適用する。
 「横桁取付」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出することより「B」を適用する。

「部分プレストレス」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出することより「B」を適用する。

「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。

「コンクリート」は、BIM/CIMモデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「A」を適用する。

「型枠」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。

「足場」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) ブロック桁組立は、鋼材質量を算出する。

5.2.3 PC片持架設工

1. 適用

PC橋のうち最大支間長170m以下で2主桁の場所打ち片持ち架設工（斜張橋は除く）を対象とする。

2. 数量算出項目

各支保工、剛結工、作業車組立解体、作業車移動据付工、作業車クライミング工、作業車引戻工の数量を算出する。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			規格・仕様	単位	数量
架設支保工		A		空m ³	側径間部（くさび結合支保、支柱支保）
柱頭部 仮支承	柱頭部仮支承	A		m ³	鉄筋、型枠工、コンクリート、仮支承撤去取壊を含む
	剛結工	B		箇所	
ブラケット式支保工		A		空m ³	柱頭部（上支保工、本 体工）
				t	
吊支保工		B		t	中央閉合部
枠組式支保工		A		空m ³	張出床版部、箱桁内部
作業車組立解体工		B		1台1 回	
作業車移動据付工		B		〃	
作業車クライミング工		B		〃	
作業車引戻工		B		m	

「架設支保工」は、BIM/CIMモデルより体積を算出することより「A」を適用する。

「柱頭部仮支承」の「柱頭部仮支承」は、BIM/CIMモデルより体積を算出することより「A」を適用する。「剛結工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と箇所を算出することより「B」を適用する。

「ブラケット式支保工」と「枠組式支保工」は、BIM/CIMモデルより体積を算出することより「A」を適用する。「吊支保工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積より空体積等を算出することより「B」を適用する。

「作業車組立解体工」、「作業車移動据付工」、「作業車クライミング工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置より回数を算出することより「B」を適用する。

「作業車引戻工」、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置より距離を算出することより「B」を適用する。

3. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

各連ごとに数量をとりまとめる。

(1) 架設支保工

1) 側径間部くさび結合支保

「第3編（道路編）5章コンクリート橋上部工 5. 3 架設支保工 2. くさび結合支保工」による。

2) 側径間部支柱式支保

「第3編（道路編）5章コンクリート橋上部工 5. 3 架設支保工 3. 支柱支保工」による。

(2) 柱頭部仮支承

柱頭部仮支承（鉄筋加工組立、型枠製作設置撤去、コンクリート打設、仮支承部取り壊し及び撤去作業である。）としてコンクリート量を算出する。

(3) 剛結工

剛結工は以下の内訳で算出する。

1) PC鋼棒工

「第3編（道路編）5章コンクリート橋上部工 5. 1 コンクリート主桁製作工 5. 1. 7 PC片持製作工（4）PC鋼棒工」による。

2) PC鋼棒継手工

「第3編（道路編）5章コンクリート橋上部工 5. 1 コンクリート主桁製作工 5. 1. 7 PC片持製作工（5）PC鋼棒継手工」による。

3) PC鋼棒定着工

「第3編（道路編）5章コンクリート橋上部工 5. 1 コンクリート主桁製作工 5. 1. 7 PC片持製作工（6）PC鋼棒定着工」による。

4) PC鋼棒緊張工

「第3編（道路編）5章コンクリート橋上部工 5. 1 コンクリート主桁製作工 5. 1. 7 PC片持製作工（7）PC鋼棒緊張工」による。

5) PC鋼棒開放工

PC鋼棒開放工として、鋼棒の箇所数を計上する。

(4) 支保工

下記の図より算出する。

(5) 作業車クライミング

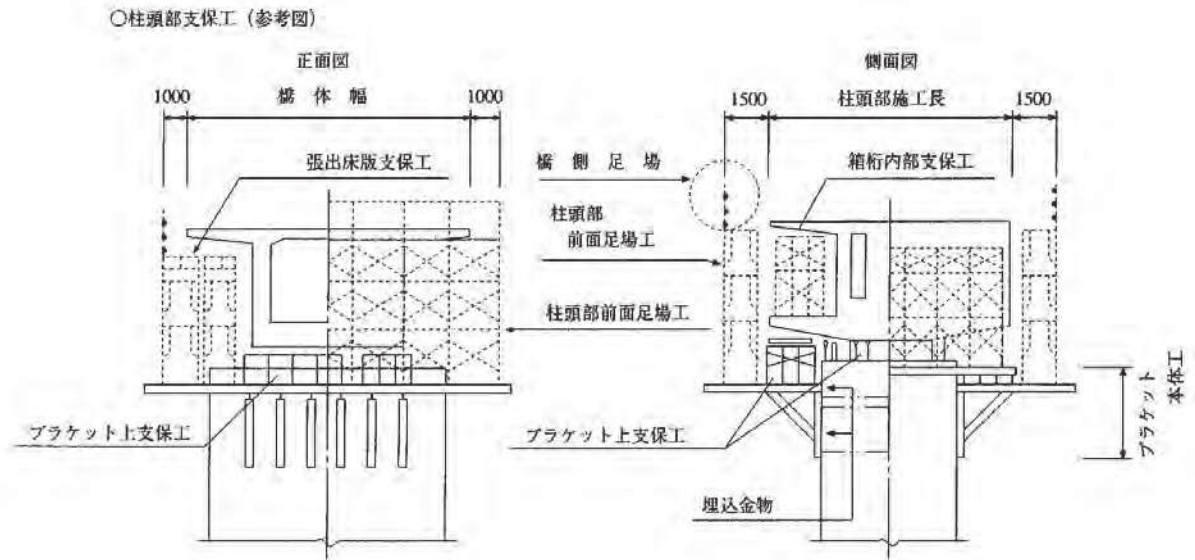
作業車の下部構造を引き上げる作業をいう。

(6) 作業車引き戻し工

作業車を解体作業位置まで引き戻す作業をいう。

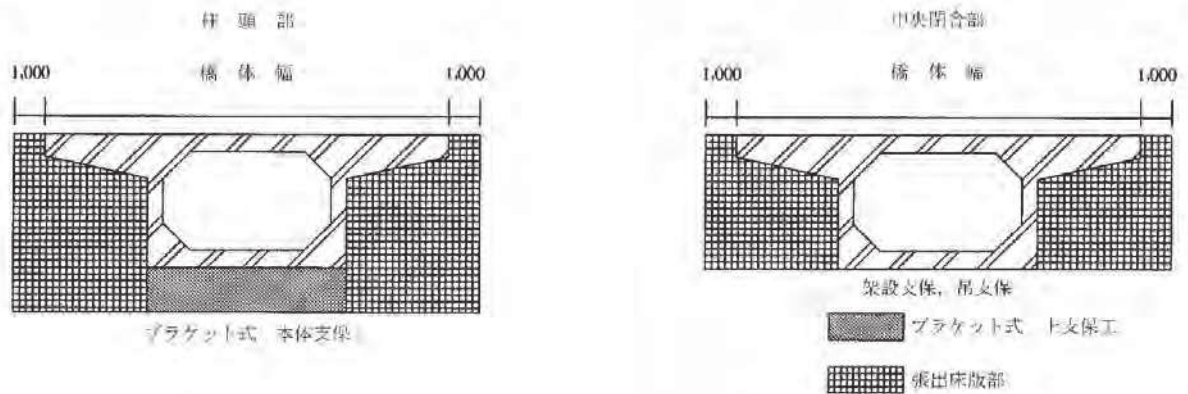
○ 柱頭部支保工（参考図）

〈ブラケット式支保工〉



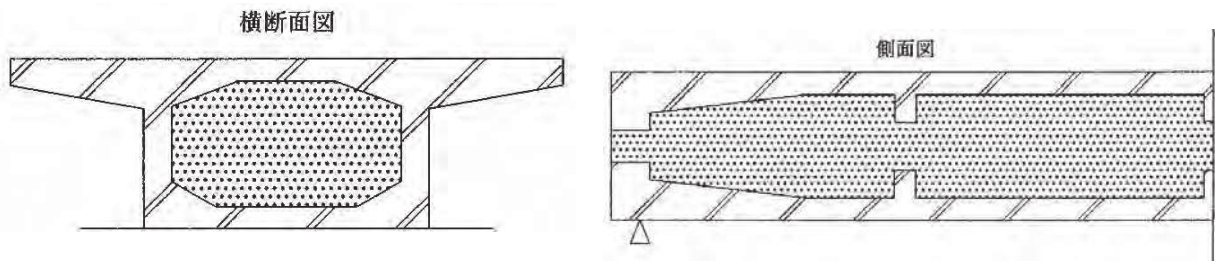
(1) ブラケット式上支保、張出床版部

支保工空 m^3 = 着色部断面積 × 長さ



(2) 箱桁内部

支保工費を算出する場合の支保工空 m^3 数は、下図の着色部の数量とする。



5.3 架設支保工

1. 適用

場所打コンクリート床版橋（箱桁を含む）の支保工に適用する。

くさび結合支保を標準とし、くさび結合支保が困難な開口部等は支柱支保工を設置する。
ただし、開口部が必要な箇所（必要最小限の幅・高さ）に限り設置するものとし、他の部分は、くさび結合支保を使用した併用式支保とする。

2. くさび結合支保工

(1) くさび結合支保

1) 数量算出項目

くさび結合支保の空体積を区分ごとに算出する。

2) 区分

区分は、支保耐力、支保高さとする。

a) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分 BIM/CIM モデル	属性情報				
		支保耐力 (k N/m ²) (t /m ²)	支保高さ (m)	単位	数量	備考
くさび結合 支保	A	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	0.6以上1.2以下	空m ³		
			1.2超え3.6以下			
			3.6超え6.0以下			
			6.0超え8.4以下			
			8.4超え11.0以下			
			11.0超え13.4以下			
		29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	0.6以上1.2以下			
			1.2超え3.6以下			
			3.6超え6.0以下			
			6.0超え8.4以下			
			8.4超え11.0以下			
			11.0超え13.4以下			
		39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	0.6以上1.2以下			
			1.2超え3.6以下			
			3.6超え6.0以下			
			6.0超え8.4以下			
			8.4超え11.0以下			
			11.0超え13.4以下			
		49.0以上58.8未満 (5.0以上6.0未満)	0.6以上1.2以下			
			1.2超え3.6以下			
			3.6超え6.0以下			
			6.0超え8.4以下			
			8.4超え11.0以下			
			11.0超え13.4以下			
58.8以上68.6未満 (6.0以上7.0未満)	0.6以上1.2以下					
	1.2超え3.6以下					
	3.6超え6.0以下					
	6.0超え8.4以下					
	8.4超え11.0以下					
	11.0超え13.4以下					
68.6以上78.5以下 (7.0以上8.0以下)	0.6以上1.2以下					
	1.2超え3.6以下					
	3.6超え6.0以下					
	6.0超え8.4以下					
	8.4超え11.0以下					
	11.0超え13.4以下					

「くさび結合支保」は、BIM/CIMモデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて区分することより「A」を適用する

3) 数量算出方法

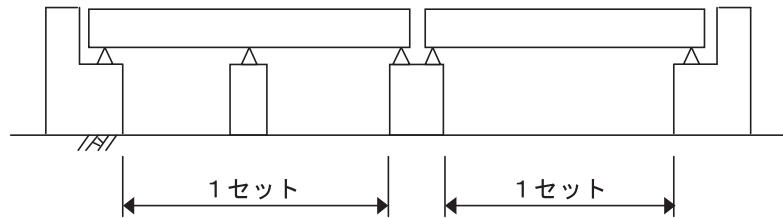
数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

a) 1セット当り施工量（V）及び支保耐力（P）を次式により算出する。

（注）1セットとは、単純支持梁の場合は1径間、連続梁の場合は1連続をいう。

（参考）1セット概略図

（例）2径間連続+単純の場合



① 1セット当りの施工量（V）

$$V = (W + 2.4) \times H \times L \quad (\text{空m}^3) \quad \dots \text{式2.1}$$

W：地覆外縁間距離（m）

H：平均桁下高さ（m）

L：1セット当り施工延長（m）

※ 開口部が必要とする場合の1セット当り施工量（Vm）

$$V_m = \text{式2.1} - \text{式3.1} \quad (\text{空m}^3) \quad \dots \text{式2.2}$$

（支柱支保延長（m）＝開口部延長（L）＋1.0）

② 支保耐力（P）

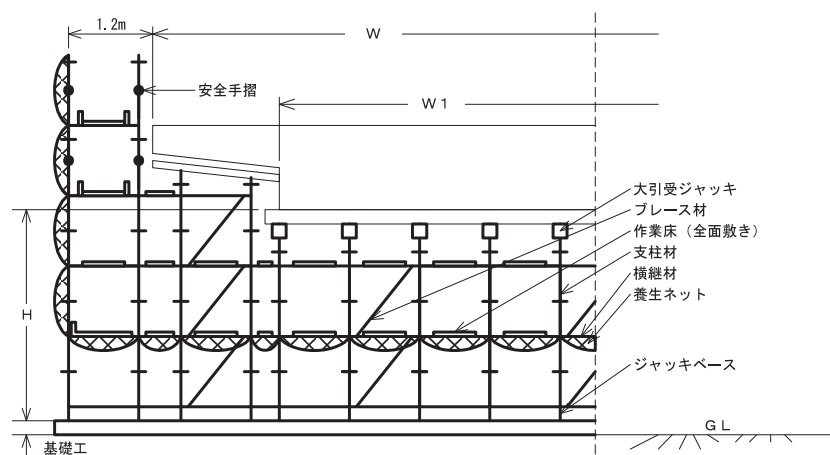
$$P = (2.81 \times d + 0.4) \times \frac{W}{W1} \times 9.80665 \quad (\text{kN/m}^2) \quad \dots \text{式2.3}$$

d：平均コンクリート厚（m）

W：地覆外縁間距離（m）

W1：中央床版幅（m）

b) くさび結合支保工概念図



注) dは、Wに対する平均コンクリート厚であり、中空部、地覆部及び変断面図等を考慮し算出する。

なお、dの算定式は、

$$d = \text{コンクリート体積} (\text{m}^3) \div [W (\text{m}) \times \text{桁長} (\text{m})] \quad (\text{m})$$

とする。

(2) 基礎用鋼材

1) 数量算出項目

基礎用鋼材の敷設面積を算出する。

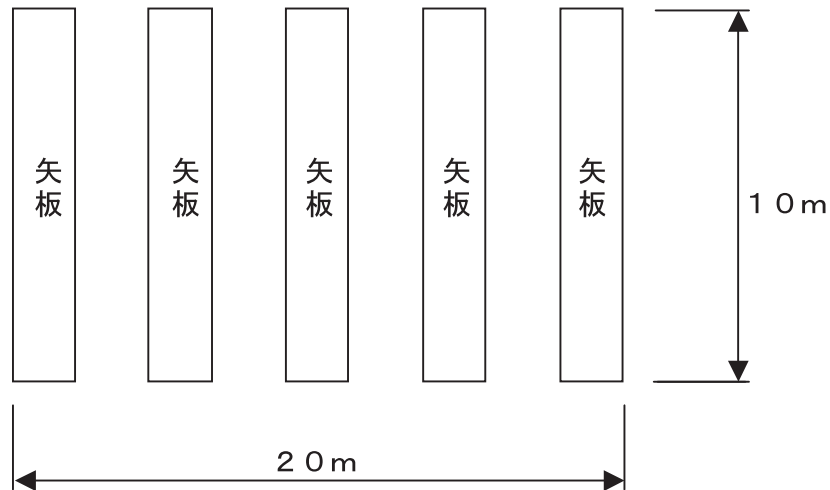
a) 数量算出項目一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			規格・仕様	単位	数量	備考
基礎用鋼材		B	○	m ²		

「基礎用鋼材」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。

注) 砂利等が必要な場合及び撤去する場合は別途算出する。

(参考) 基礎用鋼材敷設面積算出方法



$$\text{基礎用鋼材敷設面積} = 10 \times 20 = 200 \text{ m}^2$$

3. 支柱支保工

(1) 支柱支保

1) 数量算出項目

支柱支保の空体積を区分ごとに算出する。

2) 区分

区分は、開口部延長、支保耐力、支保高さとする。

a) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分 BIM/CIM モデル	属性情報					
		開口部 延長(m)	支保耐力 (kN/m ²) (t/m ²)	支保高さ (m)	単位	数量	備考
支柱支保	A	7以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.5以上4.6未満	空m ³		
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
			29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.5以上4.6未満			
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
			39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.5以上4.6未満			
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
			49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	1.5以上4.6未満			
				4.6以上7.6未満			
				7.6以上10.6以下			
		10以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
				7.8以上10.8以下			
			29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
				7.8以上10.8以下			
			39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
				7.8以上10.8以下			
			49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	1.6以上4.8未満			
				4.8以上7.8未満			
				7.8以上10.8以下			
13以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.8以上4.8未満					
		4.8以上7.8未満					
		7.8以上10.8以下					
	29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.8以上4.8未満					
		4.8以上7.8未満					
		7.8以上10.8以下					
	39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.8以上4.8未満					
		4.8以上7.8未満					
		7.8以上10.8以下					
	49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)	1.8以上4.8未満					
		4.8以上7.8未満					
		7.8以上10.8以下					

「支柱支保」はBIM/CIMモデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて区分することより「A」を適用する

3) 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

a) 支柱支保の施工量（V）及び支保耐力（P）を次式により算出する。

① 施工量（V）

$$V = (W + 2.4) \times H \times (\ell + 1.0) \quad (\text{空m}^3) \quad \dots \text{式3.1}$$

W：地覆外縁間距離（m）

H：支柱支保高さ $H = h + A$ （m）

h：開口部高さ（m）

A：主桁高さ（m）

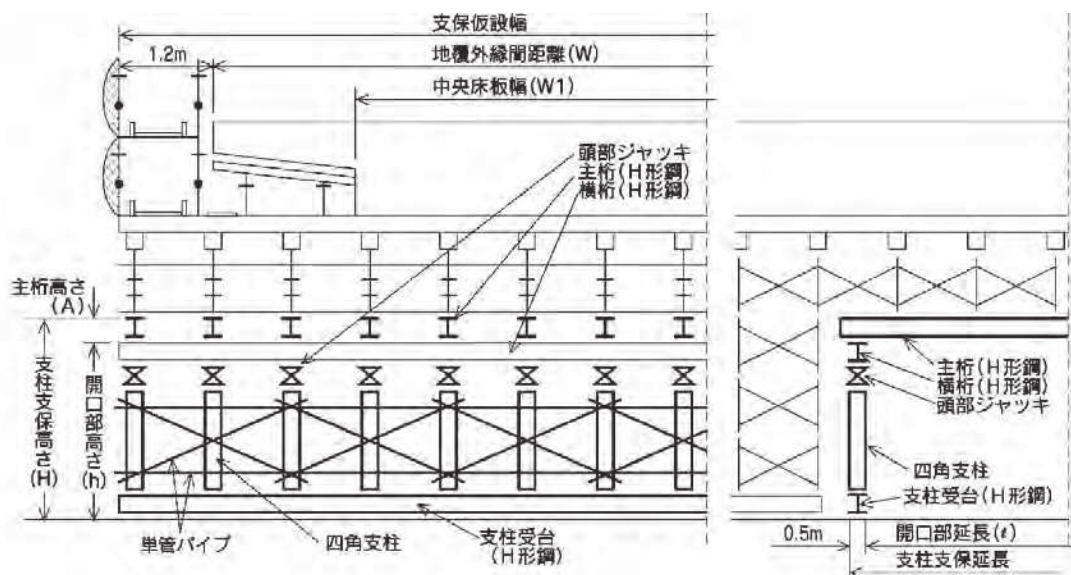
ℓ ：開口部延長（m）

※ 1 開口部において、左右の支保工の高さが異なる場合は、平均支保高さを使用する。

② 支保耐力（P）

「2. くさび結合支保工」による。

b) 支柱支保工概念図



注) 1. dは、Wに対する平均コンクリート厚であり、中空部、地覆部及び変断面図等を考慮し算出する。

なお、dの算定式は、

$$d = \text{コンクリート体積 (m}^3) \div [W \text{ (m)} \times \text{桁長 (m)}] \quad (\text{m})$$

とする。

2. 橋側足場は、別途「第3編（道路編）5章コンクリート橋上部工5.6仮設工」で計上する。

(2) 支柱受台

1) 数量算出項目

H形鋼の布設延長を算出する。

a) 数量算出項目一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			規格・仕様	単位	数量	備考
H形鋼		B	○	m		

「H形鋼」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。

5.4 横組工

5.4.1 プレテンション桁

1. 適用

プレテンション桁の横組工に適用する。

2. 数量算出項目

鉄筋、コンクリート、PCケーブル、緊張等の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			規格	単位	数量
鉄筋	B	○	t		
コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。
PCケーブル	B	○	m		グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。
緊張	B	○	ケーブル		

「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「コンクリート」は、BIM/CIMモデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。

「PCケーブル」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「緊張」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

注) 1. 特別な養生が必要な場合は別途算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 鉄筋

鉄筋の数量は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」により算出する。

(2) コンクリート

横桁及び間詰コンクリートの数量を算出する。

(3) PCケーブル

PCケーブルの延長は、定着装置内面間の実延長とし、PCケーブルの種類ごとにPCケーブル延長を算出する。

(4) 緊張

PCケーブルの種類及び定着装置の種類（緊張用、固定用）ごとに算出する。

(5) 養生

特別な養生が必要な場合、養生面積は、間詰床版の面積とする。

5.4.2 ポストテンションT桁

1. 適用

ポストテンション桁の横組工に適用する。

2. 数量算出項目

鉄筋、コンクリート、PCケーブル、緊張等の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			規格	単位	数量
鉄筋		B	○	t	
コンクリート		A	○	m ³	型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。
PCケーブル		B	○	m	グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。
緊張		B	○	ケーブル	

「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「コンクリート」は、BIM/CIMモデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。

「PCケーブル」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「緊張」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

注) 1. 特別な養生が必要な場合は別途算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 鉄筋

鉄筋の数量は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」により算出する。

(2) コンクリート

横桁及び間詰コンクリートの数量を算出する。

(3) PCケーブル

PCケーブルの延長は、定着装置内面間の実延長とし、PCケーブルの種類ごとにPCケーブル延長を算出する。

(4) 緊張

PCケーブルの種類及び定着装置の種類（緊張用、固定用）ごとに算出する。

(5) 養生

特別な養生が必要な場合、養生面積は、間詰床版の面積とする。

5.5 支承工

1. 適用

コンクリート橋上部工の支承工に適用する。

2. 数量算出項目

ゴム支承、アンカーバー、アンカーキャップ、スパイラル筋、防触材、モルタル等の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			規格	単位	数量
ゴム支承		B	○	個 (m)	
アンカーバー		B	○	kg (本)	
アンカーキャップ		B	○	kg (本)	
スパイラル筋		B	○	kg (本)	
防触材		B	○	kg (本)	
モルタル		A	○	m ³	

「ゴム支承」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と個数（延長）を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「アンカーバー」、「アンカーキャップ」、「スパイラル筋」と「防触材」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と質量（本数）を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「モルタル」は、BIM/CIMモデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) ゴム支承

Aタイプ（プレテンション床版橋用 簡易タイプ）、Aタイプ（パッドタイプ）、Bタイプごとに算出する。

(2) アンカーバー

規格・径ごとに算出する。

(3) アンカーキャップ

規格・径ごとに算出する。

(4) スパイラル筋

規格・径ごとに算出する。

(5) 防触材

アイガス等の数量を算出する。

(6) モルタル

支承1m又は1個当りの種類別に無収縮モルタル量（m³）を算出する。

5. 金属支承

金属支承の数量は、「4章鋼橋上部工 4.4 鋼橋架設工」により算出する。

5.6 仮設工

5.6.1 足場設備工

1. 適用

プレテンション桁、ポストテンション桁、プレビーム桁の架設工及びP C片持架設工の足場設備工に適用する。

2. 数量算出項目

足場及び手摺りの数量を算出する

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			規格・仕様	単位	数量
桁下足場		B		m ²	プレテンション桁(T桁) ポストテンション桁 プレビーム桁
側部足場		B		m	プレテンション(スラブ桁)
P C片持	柱頭部足場	B		m ²	
	橋側足場	B		m	
	橋面手摺工	B		m	

「桁下足場」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。

「側部足場」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出することより「B」を適用する。

「P C片持」の「柱頭部足場」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。

「P C片持」の「橋側足場」と「橋面手摺工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出することより「B」を適用する。

3. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 桁下足場

足場工は、パイプ吊足場を標準とし、次式により算出する。

$$A = W \cdot L$$

A：足場面積（m²）

W：全幅員（地覆外縁距離又は、壁高欄縁距離）（m）

L：橋長（m）

(2) 側部足場

足場総延長（m）を算出する。

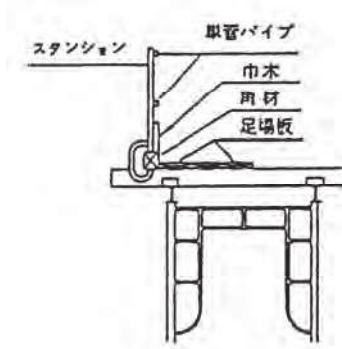
(3) 柱頭部足場

A = 橋体幅 × 柱頭部施工長

A：足場面積（m²）

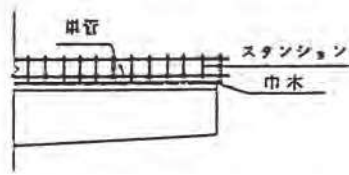
- (4) 橋側足場
側径間部，中央閉合部の支保工上のみ算出する。
- (5) 橋面手摺
 $L = \text{橋長} \times 2 \text{ (m)}$

橋側足場工

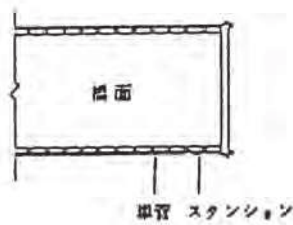


橋面手摺工

側面図



平面図



5.6.2 防護設備工

1. 適用

プレテンション桁、ポストテンション桁、プレビーム桁の架設工及びP C片持架設工の防護設備工に適用する。

2. 数量算出項目

P C防護の面積を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			規格・仕様	単位	数量
P C防護		B		m ²	

「P C防護」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。

3. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

P C防護（朝顔を含む）は、桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、次式により算出する。

$$A = \text{全幅員} \times \text{必要長}$$

A：防護設備工必要面積（m²）

P C片持架設

柱頭部、中央閉合部における必要面積を算出するものとし、次式を標準とし算出する。

(柱頭部)

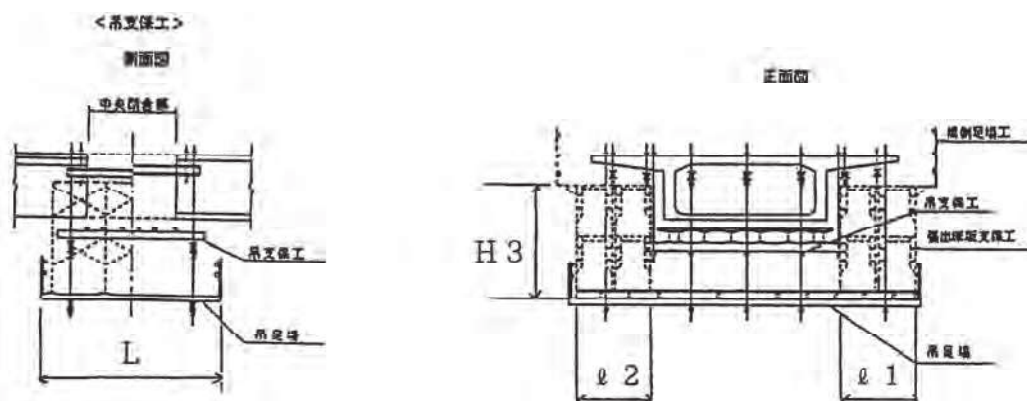
$$A = \{ (\text{橋体幅} + 1000 \times 2) \times H1 + \text{柱頭部施工長} \times H2 \} \times 2$$

A = 防護設備必要面積（m²）
H1 = 柱頭部足場高（m）
H2 = 張出床版支保高さ（m）

(中央閉合部)

$$A = \{ L \times 2 + (\ell 1 + \ell 2) \times 2 \} \times H3$$

A = 防護設備必要面積（m²）
H3 = 張出床版支保高さ（m）



5.6.3 登り棧橋工

登り棧橋の数量は、「4章鋼橋上部工 4.5 仮設工」により算出する。

5.7 橋梁付属物工

5.7.1 伸縮装置工

伸縮装置の数量は、「4章鋼橋上部工 4.7 橋梁付属物工」により算出する。

5.7.2 橋梁排水管設置工

橋梁排水管の数量は、「4章鋼橋上部工 4.7 橋梁付属物工」により算出する。

5.7.3 橋梁付属施設設置工

排水桁、橋名板取付、橋梁用高欄、橋梁用高欄一体式（材料費）、飾り高欄、飾り高欄（材料費）の数量は、「4章鋼橋上部工 4.1.2 付属物」により算出する。

6 章 鋼製橋脚設置工

6.1 鋼製橋脚設置工

6章 鋼製橋脚設置工

6.1 鋼製橋脚設置工

1. 適用

陸上での鋼製橋脚設置工事に適用する。

2. 数量算出項目

鋼製橋脚の基数と架設鋼材質量、地組鋼材質量、現場溶接延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	BIM/CIM モデル	属 性 情 報			
		規 格	単 位	数 量	備 考
アンカーフレーム架設	II	×	基		
アンカーフレームグラウト注入	I	○	m ³		
鋼製橋脚地組	I	×	t		
鋼製橋脚地組連結	II	×	箇所		
鋼製橋脚架設	I	×	t		
鋼製橋脚架設ブロック	II	×	ブロック		
鋼製橋脚	II	×	脚		
鋼製橋脚膨張モルタル注入	I	○	m ³		
鋼製橋脚無収縮モルタル注入	I	○	m ³		
現 場 溶 接	II	×	m		平均板厚 t = mm
ビ ー ド 仕 上 げ	II	×	m		
ト ル シ ア ボ ル ト	II	○	本		
足 場	B	×	掛m ²		

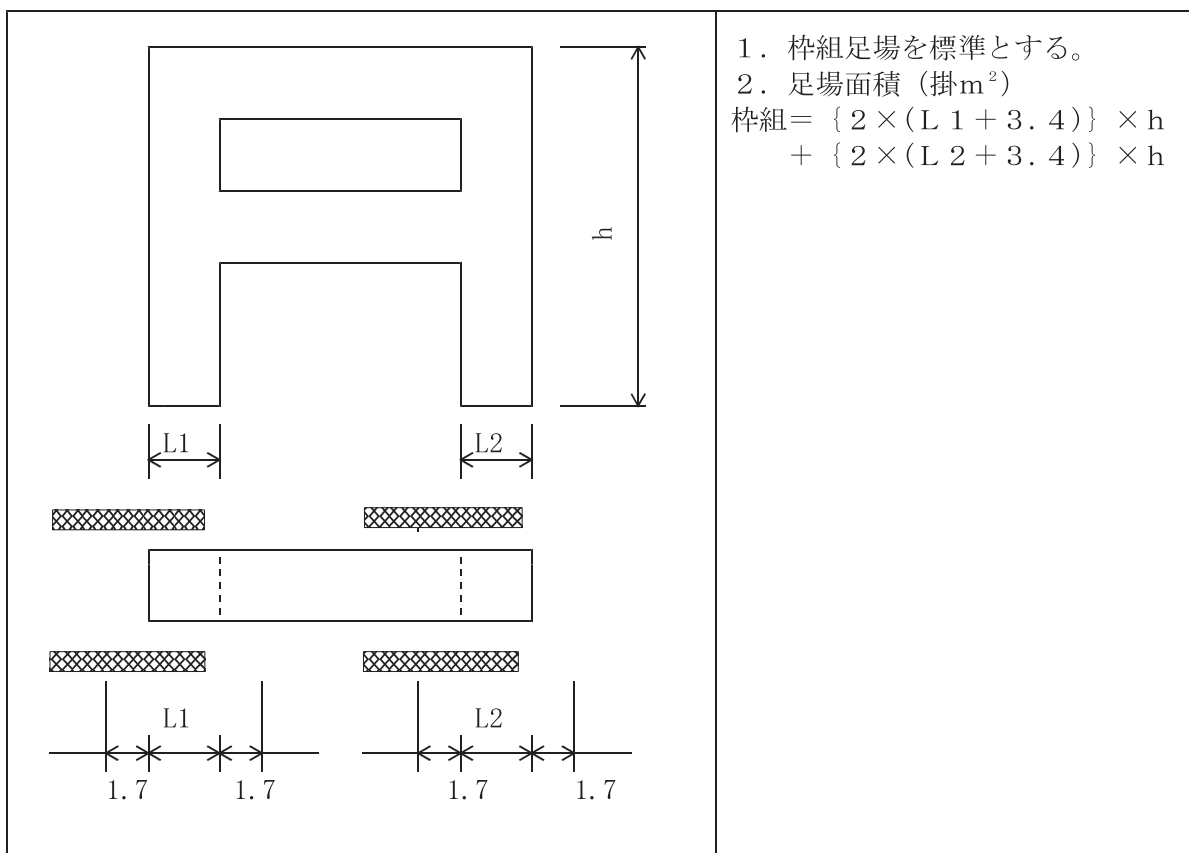
BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、鋼構造およびコンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) アンカーフレームモルタル注入量はアンカーフレーム1基ごとに算出する。
- (2) 鋼製橋脚膨張モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。
- (3) 鋼製橋脚無収縮モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。
- (4) 現場溶接はビード仕上げの有無に関わらず総延長を算出する。
- (5) ビード仕上げは必要な場合のみ算出するものとし、総延長を算出する。
- (6) 足場
足場は「第1編（共通編）11章仮設工11.4足場工」によるものとする。

- 1) 足場面積の算出は、下記のとおりとする。なお現場条件、橋脚の構造および施工方法等でこれによりがたい場合は、別途算出するものとする。



7 章 橋台・橋脚工

7.1 橋台・橋脚工

7.1.1 橋台・橋脚工（1）

7.1.2 橋台・橋脚工（2）

7章 橋台・橋脚工

7.1 橋台・橋脚工

7.1.1 橋台・橋脚工(1)(構造物単位)

1. 適用

橋台及び橋脚の施工に適用する。なお、以下の適用を外れる橋台・橋脚については、橋台・橋脚工(2)」を適用する。

1-1. 適用出来る範囲

- (1) 構造物高さ5m以上25m未満のT形橋脚（躯体が円形及び小判型含む）の場合
- (2) 構造物高さ5m以上20m未満の壁式橋脚（躯体が小判型含む）の場合
- (3) 構造物高さ12m未満かつ翼壁厚0.4m以上0.6m以下の逆T式橋台の場合
なお、橋台パラペットを後施工する場合、構造物高さに後施工分は含まない。

1-2. 適用出来ない範囲

- (1) 同一構造物で、フーチングと躯体のコンクリート強度が異なる場合。
- (2) フーチングのみの工事、又は躯体のみの工事の場合。
- (3) 化粧型枠を使用する場合
- (4) 手摺先行型枠組足場以外の足場を使用する場合

2. 数量算出項目

橋台・橋脚本体コンクリート（橋台においては翼壁を含む）、鉄筋の数量を区分毎に算出する。
また、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、均しコンクリートについては必要の有無を確認する。

- 注) 1. 鉄筋については「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」によるものとする。
2. 基礎砕石（敷均し厚20cmを超える場合）については、「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工」によるものとする。
3. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11.6.2雪寒仮囲い工」によるものとする。
4. 逆T式橋台において水抜パイプが必要な場合は、別途考慮するものとする。

3. 区分

区分は、規格、形式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分 BIM/CIM モデル	属性情報				
		規格	必要性の有無	単位	数量	備考
橋台・橋脚コンクリート	A	○	×	m ³		
基礎砕石	C	×	○	-		
均しコンクリート	C	×	○	-		
鉄筋工	B	○	×	t		

橋脚、橋台のBIM/CIMモデルに付与するよる数量算出の条件区分（属性情報）を以下に示す。

- 橋台・橋脚コンクリートの属性情報の規格は生コンクリート規格を付与するものとする。
- 基礎砕石と均しコンクリートは、必要性の有無を判断するものである。この場合、幾何形状を作成せずに、橋台や橋脚のオブジェクトに対して付与する属性情報を利用して必要性の有無を表現することを基本とする。なお、BIM/CIMモデルの幾何形状を作成することを妨げるものではない。
- 鉄筋工は、3次元CADの機能があり、手間を掛けずに3次元モデルが作成できる場合には、BIM/CIMモデルを作成する。数量付与する属性情報は鉄筋材料規格・径とする。

- 注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。
2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆T式橋台、T型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3. (2)を参照のこと。
3. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出するなお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。

(2) 規格

橋台・橋脚コンクリートの生コンクリート規格ごとに算出する。

鉄筋工の鉄筋材料規格・径ごとに算出する。

(3) 形式

橋台・橋脚形式ごとに算出する。

1) T型橋脚

構造物高さ区分 打設量区分	5m以上 10m未満	10m以上 15m未満	15m以上 25m未満
100m ³ 以上 300m ³ 未満	○	—	—
300m ³ 以上 500m ³ 未満	○	—	
120m ³ 以上 220m ³ 未満	—	○	
220m ³ 以上 440m ³ 未満		○	
440m ³ 以上 650m ³ 未満		○	
290m ³ 以上 910m ³ 未満		○	
910m ³ 以上 980m ³ 未満		○	

(注) 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

2) 壁式橋脚

構造物高さ区分 打設量区分	5m以上 15m未満	15m以上 20m未満
100m ³ 以上 280m ³ 未満	○	—
280m ³ 以上 700m ³ 未満	○	
250m ³ 以上 520m ³ 未満	—	○
520m ³ 以上 700m ³ 未満		○

(注) 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

3) 逆T式橋台

構造物高さ区分 打設量区分	5m未満	5m以上 7m未満	7m以上 9m未満	9m以上 10m未満	10m以上 11m未満	11m以上 12m未満
50 m ³ 以上 140m ³ 未満	○	—	—	—	—	—
140m ³ 以上 260m ³ 未満	○					
50 m ³ 以上 90 m ³ 未満	○					
90 m ³ 以上 160m ³ 未満	—	○	—	—	—	—
160m ³ 以上 310m ³ 未満		○				
70 m ³ 以上 110m ³ 未満		○				
110m ³ 以上 210m ³ 未満		○				
210m ³ 以上 310m ³ 未満		○				
130m ³ 以上 280m ³ 未満		—	—	○	—	—
280m ³ 以上 310m ³ 未満				○		
230m ³ 以上 370m ³ 未満				○		
370m ³ 以上 650m ³ 未満				○		
230m ³ 以上 320m ³ 未満				○		
320m ³ 以上 560m ³ 未満	—	—	—	○	○	
560m ³ 以上 650m ³ 未満				○		

(注) 1. 上表は翼壁厚0.4m以上0.6m以下に適用する。

2. 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

(4) 基礎材・均しコンクリート

基礎材・均しコンクリートの有無を算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。

5. 参考図

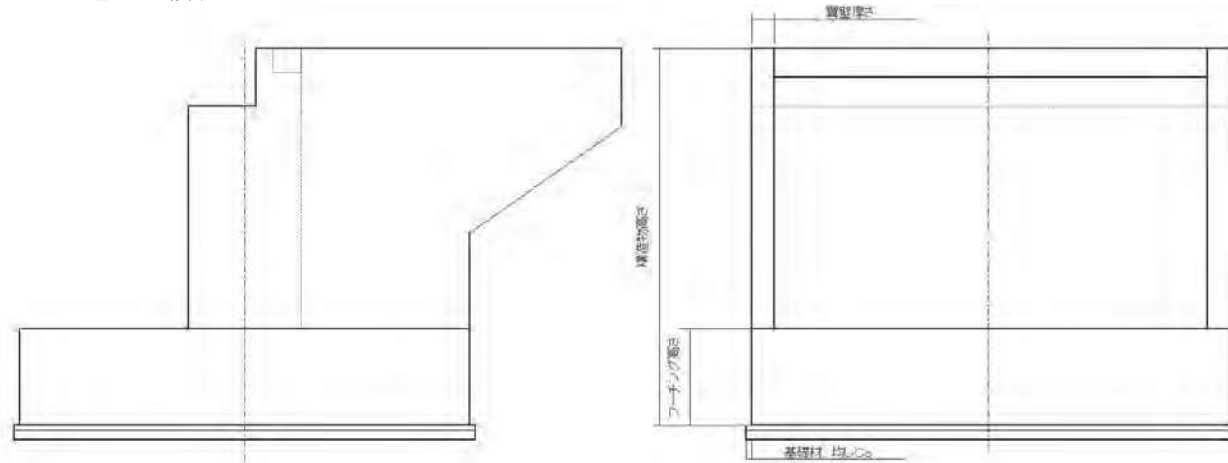
T型橋脚



壁式橋脚



逆T式橋台



7. 1. 2 橋台・橋脚工(2)

1. 適用

橋台・橋脚工（1）適用範囲を外れた橋台・橋脚のコンクリート打設に適用する。なお、適用可能な形式は、T形橋脚（円形及び小判型含む）、壁式橋脚（小判型含む）及び逆T式橋台とし、同一構造物で、コンクリート強度が異なる場合、フーチングのみ又は躯体のみの施工の場合は適用出来ない。適用を外れる橋台・橋脚については、「コンクリート工」等により別途計上する。

2. 数量算出項目

橋台・橋脚本体コンクリート（橋台においては翼壁を含む）、型枠（化粧型枠）、鉄筋、足場、支保等について、数量を区分毎に算出する。

- 注) 1. コンクリート（橋台・橋脚本体コンクリート）については、「7. 1. 1 橋台・橋脚工（1）」によるものとする。
ただし、形式については、特に指定は行わない。
2. 型枠については、「第1編（共通編）4. 2 型枠工」によるものとする。
 3. 鉄筋については、「第1編（共通編）4. 3. 1 鉄筋工」によるものとする。
 4. 足場については、「第1編（共通編）11. 4 足場工」によるものとする。
 5. 支保については、「第1編（共通編）11. 5 支保工」によるものとする。
 6. 基礎砕石については、「第1編（共通編）9. 1 基礎・裏込砕石工」によるものとする。
 7. 均しコンクリートについては、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」によるものとする。
 8. 冬期の施工で、雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11. 6. 2 雪寒仮囲い工」によるものとする。
 9. 逆T式橋台において、水抜パイプが必要な場合は別途考慮する。

8 章 橋梁補修工

- 8.1 橋梁地覆補修工（撤去・復旧）
- 8.2 支承取替工
- 8.3 沓座拡幅工
- 8.4 現場溶接鋼桁補強工
- 8.5 表面被覆工（塗装工法）

8章 橋梁補修工

8.1 橋梁地覆補修工(撤去・復旧)

1. 適用

旧高欄の撤去を含めた地覆コンクリートの撤去・修復に適用する。
ただし、高欄の設置は含まない。

2. 数量算出項目

とりこわし、鉄筋、コンクリート、足場・防護の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、鉄筋規格、コンクリート規格、養生工の有無、防護種類、1工事での足場使用回数、足場を架設している総月数とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

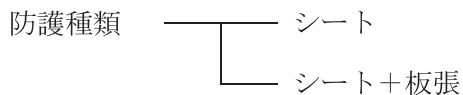
項目	区分	BIM/CI Mモデル	属性情報							
			鉄筋規格	コンクリート規格	養生工の有無	防護種類	1工事での足場使用回数	足場を架設している総月数	単位	数量
とりこわし	A	×	×	×	×	×	×	m ³		
鉄筋	B	○	×	×	×	×	×	t		
コンクリート	A	×	○	○	×	×	×	m ³		
足場・防護	B	×	×	×	○	○	○	m ²		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

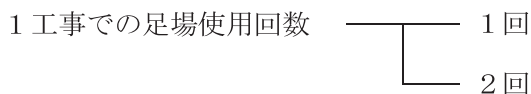
(2) 養生工の有無による区分



(3) 防護種類による区分



(4) 1工事での足場使用回数による区分



4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 足場面積は、次式により算出する。

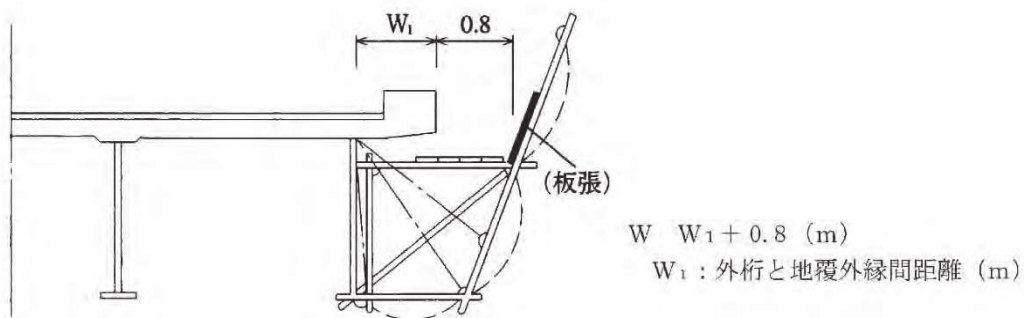
$$A = W \times L$$

A：足場面積（ m^2 ）

W：足場必要幅（m）（参考図による）

L：地覆補修延長（m）

5. 参考図（足場・防護標準図）



8.2 支承取替工

1. 適用

橋梁補修工のうち、鋼橋及びPC橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、鋼橋及びPC橋以外の支承取替の場合（RC橋・PRC橋・複合橋等）沓座コンクリートのはつりにウオータージェットを使用する場合、膨張型薄型ジャッキ（フラットジャッキ等）を使用する場合、補修用足場にベント設備を用いる場合には適用しないものとする。

適用できる範囲

- ・鋼橋の支承形式は以下を標準とする。

種 類 形 式	鋼橋—鋼製支承			鋼橋—ゴム支承
	I	II	III	IV
作用する反力kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下

- ・PC橋の支承形式は以下を標準とする。

種 類	PC橋—ゴム支承
形 式	V
作用する反力 kN (t)	1961.3kN (200t) 以下

2. 数量算出項目

支承取替（鋼橋）、支承取替（PC橋）、支承（材料費）、桁付ブラケット（材料費）、沓座コンクリートはつり（支承直下部以外）、下部工ブラケット取付、下部工ブラケット（材料費）、足場の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

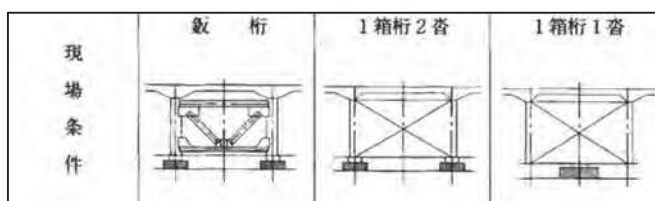
区分は、規格、支承形式、現場条件、供用日数とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

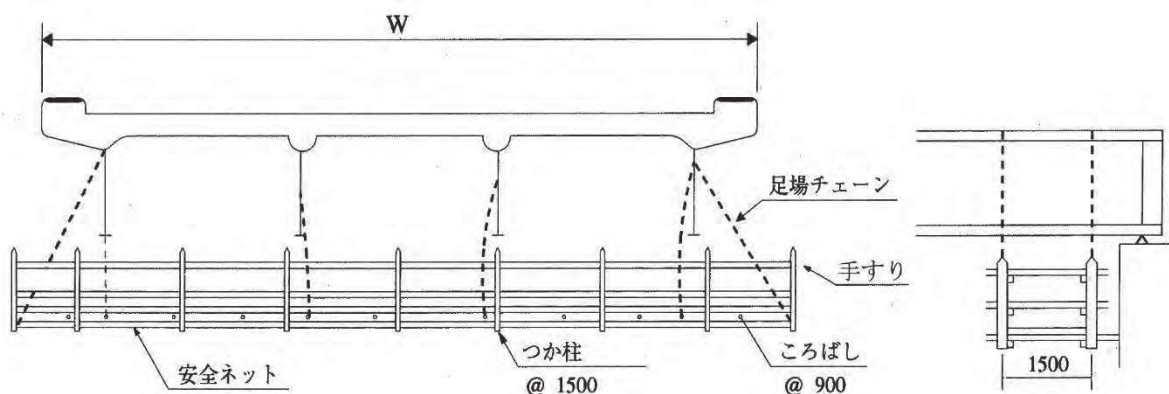
項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報							
			規格	支承 形式	現場 条件	下部工 Bracket 取付の有無	供用 日数	単位	数量	備考
支承取替 (鋼橋)	B	B	○	○	○	○	×	基		
支承取替 (PC橋)	B	B	○	×	×	×	×	基		
支承 (材料費)	B	B	○	×	×	×	×	個		
桁付 Bracket (材料費)	B	B	○	×	×	×	×	基		
沓座コンクリートはつり (支承直下部以外)	A	A	○	×	×	×	×	m ³		
下部工 Bracket 取付	B	B	○	×	×	(Bracket 単部 材質量)	×	基		
下部工 Bracket (材料費)	B	B	○	×	×	×	×	基		
足場	B	B	○	×	×	×	×	m ²		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 現場条件は以下を標準とする。



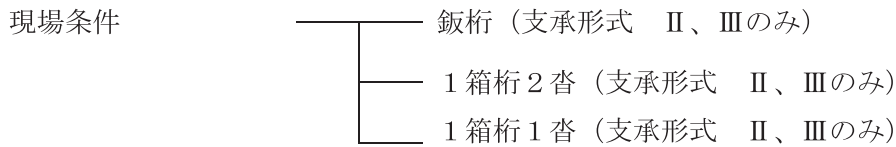
2. 支承取替工における足場工は、下図に示す橋脚回り足場を標準とする。
なお、現場条件等により、これによりがたい場合は別途考慮するものとする。



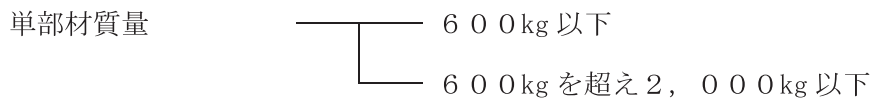
(2) 支承取替（鋼橋）の支承形式による区分



(3) 支承取替（鋼橋）の現場条件による区分



(4) 下部工ブラケット取付の単部材質量による区分



関連数量算出項目

項目	BIM/CIM モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
現場補修塗装工	B	m ²		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

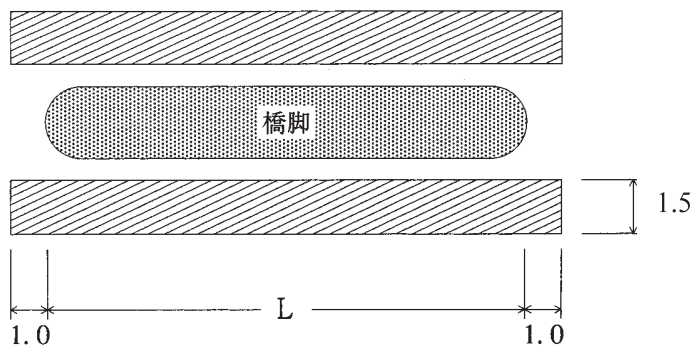
(1) 支承（材料費）は、規格ごとにアンカーボルトを含み、個数を算出する。

(2) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。

$$\text{足場面積} A = (L + 1.0 \times 2) \times 1.5 \times 2 \times n$$

L：橋台及び橋脚の長さ（m）

n：橋台及び橋脚の数（ただし、橋台の場合は1/2とする。）



8.3 沓座拡幅工

1. 適用

コンクリート沓座拡幅工のうちコンクリート削孔、充填補修、チッピング、アンカー筋挿入、鉄筋組立、型枠製作・設置・撤去、コンクリート打設・養生、足場及び防護、鋼製ブラケット沓座拡幅工のうちコンクリート削孔、アンカーボルト挿入、充填補修、不陸整正、鋼製ブラケット設置、足場及び防護に適用する。

2. 数量算出項目

チッピング（厚2cm以下）、アンカー筋挿入、アンカー筋（材料費）、注入材（材料費）、鉄筋（沓座拡幅工）、型枠（沓座拡幅工）、コンクリート（沓座拡幅工）の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする

(1) 数量算出項目一覧表

項目	BIM/CIM モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
チッピング（厚2cm以下）	B	×	m ²		
アンカー筋挿入	B	○	本		
アンカー筋（材料費）	B	○	本		
注入材（材料費）	B	○	本		
鉄筋（沓座拡幅工）	B	○	t		
型枠（沓座拡幅工）	B	×	m ²		
コンクリート（沓座拡幅工）	A	○	m ³		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

関連数量算出項目

項目	BIM/CIM モデル	単位	数量	備考
削孔	B	孔		「第3編（道路編）3.22落橋防止装置工」参照
アンカーボルト挿入	B	本		「第3編（道路編）3.22落橋防止装置工」参照
充填補修	B	孔		「第3編（道路編）3.22落橋防止装置工」参照
鋼製ブラケット設置	B	基		「第3編（道路編）8.2支承取替工」参照
足場	B	m ²		「第3編（道路編）8.2支承取替工」参照
防護	B	m ²		「第3編（道路編）3.20床板補強工」参照

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 防護は、鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、板張を原則とする。

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) アンカー筋（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。
- (2) 注入材（材料費）は、ロスを16%とし規格ごとに1本当りの使用量（kg）を算出する。
- (3) 鉄筋（沓座拡幅工）は、規格ごとに質量（t）を算出する。
- (4) コンクリート（沓座拡幅工）は、規格ごとに数量（m³）を算出する。
- (5) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。

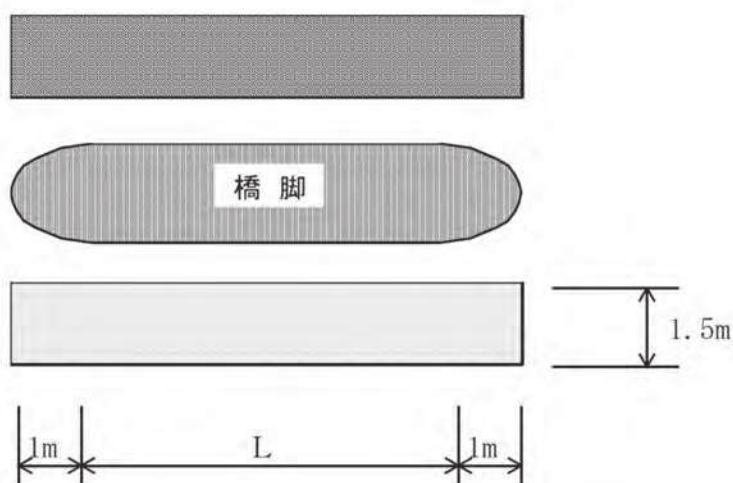
$$\text{足場面積} A = (L + 2) \times 2 \times 1.5 \times n$$

L：橋台及び橋脚の長さ（m）

n：橋台及び橋脚の数（ただし橋台の場合は1/2とする。）

5. 参考図

足場面積



8.4 現場溶接鋼桁補強工

1. 適用

桁補強を目的とする部材取付等の現場溶接作業に適用する。

2. 数量算出項目

現場溶接鋼桁補強の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	BIM/CIM モデル	属性情報			
		規格・仕様	単位	数量	備考
現場溶接鋼桁補強	B	○	m		溶接延長（6mm換算長）

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

関連数量算出項目

項目	BIM/CIM モデル	単位	数量	備考
足場	B	掛m ²		「第1編（共通編）11.4足場工」参照

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 溶接延長は、すみ肉溶接の脚長6mmの場合を標準とするが、これ以外の場合は下式により算出する。

$$\text{溶接延長} = (S^2 \times L) / 36$$

S：脚長（mm）

L：実溶接延長（m）

8.5 表面被覆工(塗装工法)

1. 適用

橋梁補修のコンクリート面の表面被覆工（塗装工法）における1橋当りの塗装作業（仕上げ面積2,000m²以下）に適用する。ただし、新設時の塗装には適用しない。

2. 数量算出項目

下地処理、プライマー塗布、下塗り（パテ塗布）、中塗り材塗布、上塗り材塗布を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
下地処理	延べ施工量	B		m ²		
プライマー塗布	延べ施工量	B		m ²		
	プライマー	B	○	kg		
下塗り (パテ塗布)	延べ施工量	B		m ²		
	パテ材	B	○	kg		
中塗り材塗布	延べ施工量	B		m ²		
	中塗り材	B	○	kg		
上塗り材塗布	延べ施工量	B		m ²		
	上塗り材	B	○	kg		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
 2. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。
 3. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。
 4. 中塗り材・上塗り材を複数回塗布する場合は、回数分を計上する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。